

理事長コメント（参加型システム研究所・理事会で）

2010年4月

- ・鳩山内閣が苦境に立たされている。発足時7割を超えていた支持率が3割まで急落している。マスコミの支持率には歪曲もあるが、支持率低下は否定できない。自民党など旧体制派はいうまでもなく、一部革新系からも鳩山退陣、小沢辞任、解散・総選挙を求める声まで上がっているが、一部革新系からの鳩山政権切捨て論には強い違和感を持つ。
- ・第1に、民主党は保守党であり、メリットとともに限界を持つことは自明である。しかし、現状では日本チェンジの中核勢力であることも事実である。限界をチェックしながらメリットを生かしていくべきである。
第2に、負の遺産が大き過ぎることがある。800兆円の借金、疲弊、衰退した経済と社会、対米従属のクビキ等々を受け継ぎ、手足を縛られてのスタートなのだ。
第3は、旧体制下の利権・特権複合体による新政権潰しの攻撃が、検察、マスコミを動員して激烈に展開され、かなりの世論操作が行われていることがある。
- ・嵐の中の船出なので、なかなか前へ進めないでいるが、日本チェンジが静かに進行していることも事実である。マスコミは無視、軽視しているが、事業仕分け、次官会議廃止、密約解明、子供手当、高校無償化、農家所得補償など、自民党にはできない志の高い施策が次々に具体化し始めている。
- ・旧体制派による攻撃や世論操作に惑わされずに、明治いらいの官僚主導型政治、戦後60年の対米従属政治を改めるため、畑山政権に対し「批判しつつサポートする」スタンスをとっていきたい。